

輸血部ニュース

発行：広島大学病院 輸血部
 編集：輸血部長 藤井輝久
 内容に関するお問い合わせ：

5581（輸血部長室）または teruchan@hiroshima-u.ac.jp

深刻な輸血用血液不足に陥っています！

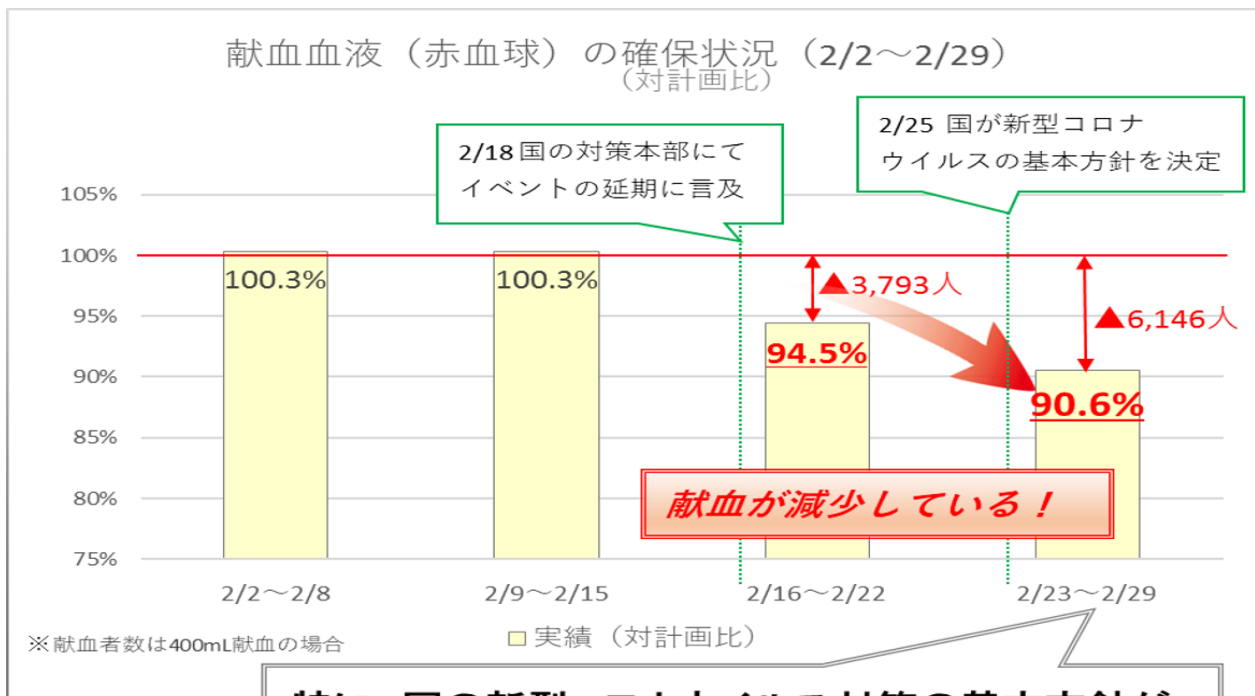
新型コロナウイルス感染拡大防止のために、多くの方が不要・不急の外出を控えていらっしゃる。その影響をもろに受けているのが、『献血事業』です。特に2月中旬より献血者が減少し、計画に対して輸血用血液が充足できてない状況が続いています（図1、日本赤十字社HPより）。この状況が続けば、さらに深刻化するおそれがあります。

型新型コロナウイルス感染伝播を予防する目的で、当面の間、献血を予約制としています。その様なこともあり、慢性的な血小板製剤不足に加えて、赤血球製剤も不足しています。

輸血施行医師の方には、この状況をご理解頂き、輸血用血液の過剰請求をせず、より一層の適正輸血を行っていただきますようお願い申し上げます。

また血液センターでは、献血者同士での新

図1 (http://www.jrc.or.jp/activity/blood/news/200302_006098.html)



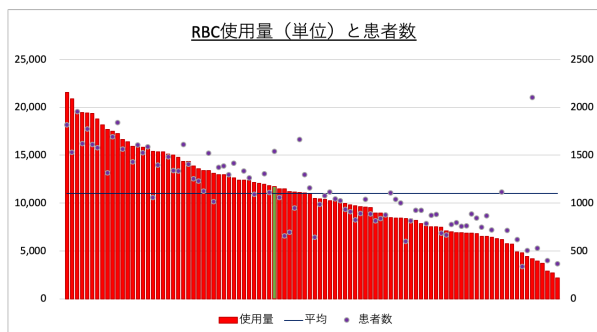
特に、国の新型コロナウイルス対策の基本方針が打ち出された2月25日以降は、献血計画に対して **87.7%** まで下がっています。
 献血者数では、2月25日から2月29日の **5日間で5,793人が不足**しています。

2019 年度全国大学病院輸血部会議業務量アンケート報告

去る 2019 年 11 月 14 日に東京・砂防会館にて、全国大学病院輸血部会議が行われました。毎年技師研究会が主導となって『業務量アンケート調査』が事前に行われており、その結果が会議の場で公表されました。本院は輸血用血液製剤の使用に関して、他大学病院と比べてどの位置にあるのか、大変興味深い資料になっていますので、皆さんにお知らせします。

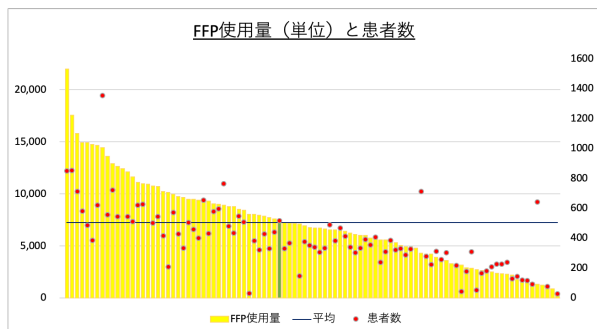
1. 赤血球製剤

2018 年の大学病院の平均使用量は 11,021 単位であり、本院は 11,702 単位、全体の 42 位の使用量でした（グラフ内棒が使用量(左軸)、点が患者数(右軸)、緑の棒が本院、横線が平均値、以下同)。患者数はのべ 1540 人です。1 人当たりの輸血量は平均以下になります。



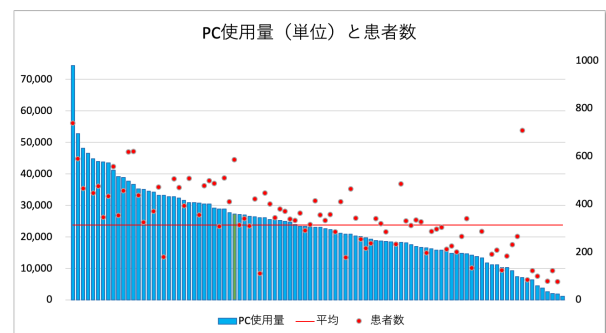
2. 血漿製剤（FFP）

大学病院の平均使用量は 7,209 単位であり、本院は 7,510 単位、患者数はのべ 516 人でした。使用量は全体の 44 位で今年の 27 位から大幅に減らしました。



3. 血小板製剤

大学病院の平均使用量は 23,681 単位であり、本院は 27,265 単位、患者数はのべ 586 人でした。使用量は全体の 27 位でした。昨年は 29,370 単位で、全体の 33 位でしたから、他院は本院よりもさらに血小板製剤の使用が減っている（⇒節減している）と言えます。



4. アルブミン製剤

全体の平均は 58,874 g でした。本院は 106,912.5g の使用量で、昨年より約 13,000g 減少しています。順位は昨年の全体 9 位から 11 位となりました。なお全国第 1 位は、東京女子医科大学病院の 203,877g でした。しかしながら、患者数を見ますと本院が 1 位となっています（のべ 1677 人）。使用しなくてよい患者にアルブミン製剤を使用していないでしょうか？ 今一度、アルブミンオーダー時に適応を考えていただければ、と存じます。

